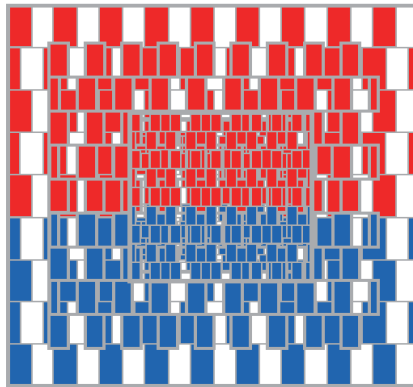


第2回TRIZシンポジウム

—TRIZ Symposium 2006 in Japan—

(2006年8月31日～9月2日、於:パナヒルズ大阪)



開会にあたって

日本TRIZ協議会
代表 林 利弘
(日立製作所)

TRIZ協議会発足に至る声

- TRIZツールベンダー系列を超えての交流が欲しい。
- 学会に準じた公的発表と見做される場が欲しい。
 - ・TRIZの社会的認知のため
 - ・TRIZに関連する広範囲かつ客観的な議論の場として
 - ・日本からの対外発信をする中立的な場として
- TRIZ関連業界への支援・連携が有益
 - ・有益ツールの日本語化についてのユーザニーズや意見の反映。
 - ・有益図書 of 翻訳発行と適切価格設定。

(成果: Matrix2003の廉価価格設定)

2004年5月: TRIZ懇話会スタート、
2005年1月: TRIZ協議会へ発展
2005年9月: 第1回TRIZシンポジウム開催
2006年8月: 第2回TRIZシンポジウム開催

「日本TRIZ協議会」の組織の概要

名称： 日本TRIZ協議会

組織形態： 公益・非営利の任意団体

(TRIZ活用・推進関連組織からの有志による個人参加)

代表および幹事：

代表	林 利弘	(株) 日立製作所
幹事	三原 祐治	(株) 富士フイルム
幹事	中川 徹	大阪学院大学
幹事	小西 慶久	MRI リサーチアソシエイツ (株)
幹事	黒澤 慎輔	産業能率大学
幹事	堀田 政利	(株) 創造開発イニシアチブ

事務局：

〒105-0013 東京都港区浜松町2-1-3 第二森ビル
(株) 創造開発イニシアチブ 内

TEL:03-5777-8197 FAX:03-5777-8818、
E-mail:info@triz-jp.com

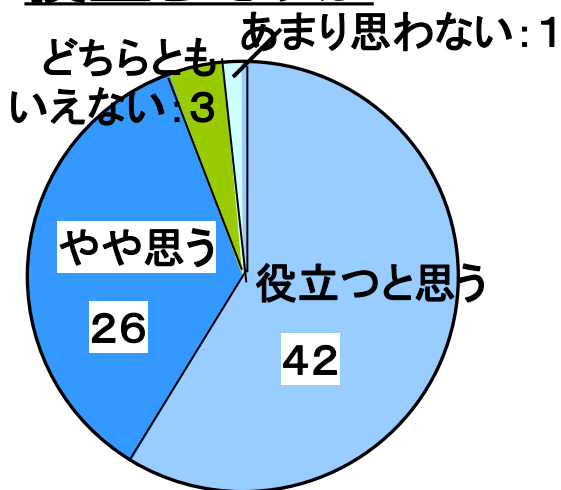
「日本TRIZ協議会」の趣旨

1. 日本におけるTRIZの普及・推進を図るための連携・協力組織。
2. 日本におけるTRIZの普及・推進に関わっている各種の組織から、本会の趣旨に賛同する個人が集まり協議体を構成。
3. TRIZ協議会の活動は、参加者の自発的な意志。
4. シンポジウムなどの公的な活動と交流の場の提供を行い、TRIZに関心をもつ人々（ユーザ、研究者、教育関係者、公益団体関係者、ツール開発・提供者、出版関係者、コンサルタント、その他）からの参加を得る。
5. 一年程度の準備期間を経て、産業界・学界・官界などからの法人参加および個人参加を得る「日本TRIZ協会（仮称）」の設立を期する。

第1回TRIZシンポジウムアンケートより

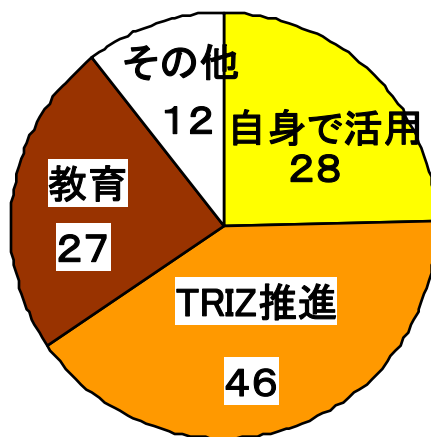
(回答者数73名)

今後の社内展開に 役立ちそうか



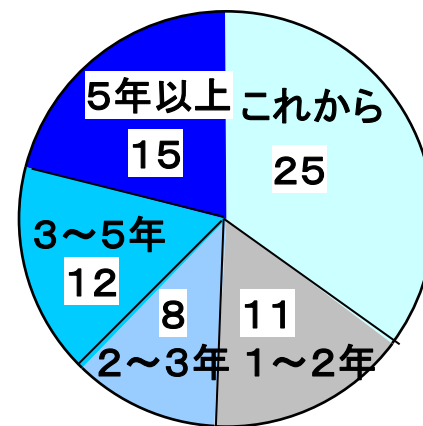
回答数: 72 (無回答: 1)

TRIZへの関わり方



総数: 113 (複数回答)

TRIZの経験年数



回答数: 71 (無回答: 2)

- ◆ 圧倒的多数(94%)が、今後の社内などへの推進・展開に対して、シンポジウムが有用との評価。
- ◆ 多くの参加者が、TRIZの推進や教育に関わる立場(65%)。
(自身でのTRIZ活用者も、推進・教育を兼ねる者が多い)
- ◆ TRIZの経験が殆んど無い方が約35%。

第2回TRIZシンポジウム企画にあたって

- 1) TRIZ関係者交流の場の良さを取り入れながら、発表論文は広範囲のテーマ(活用法、技法論、適用事例、推進法など)を海外を含めての公募形式とする。
- 2) 講演形式と個別的な深い議論を行えるポスター形式の発表を昨年に引き続き取り入れる。また、多くの発表の場とフォーカスした聴講の場を両立させるために平行セッション形式を導入。
- 3) 入門者には解説的なセッションを設け、マネジメント層には経営的視点の招待講演を企画。

第2回TRIZシンポジウム招待講演

基調講演1 : Innovation of the Integrated Product and Process Development by
WOIS – Contradiction Oriented Innovation Strategy
–WOIS Institut Prof. Dr.Linde & Dr.Herr, Germany–

基調講演2 : A Simple Theory Underlying Structured Problem-Solving
Methodologies –ASIT, TRIZ, USIT (and others)
–Ed. Sickafus (President, Ntelleck, LLC, Grosse Ile, MI, USA)

特別講演1 : ブレイクスルー思考のすすめ—物真似からの脱却
—中京大学・大学院 日比野省三教授—

特別講演2 : 経営にTRIZを如何に生かすべきか？
— パナソニックコミュニケーションズ (株) 山口 和也 氏—

解説 : TRIZの基本思考と問題解決ツールとしての可能性について
a— 産能大 澤口 学 教授

第2回TRIZシンポジウム発表者・参加者

		第1回		第2回(今回)		
論文発表者	国内	大学	大阪学院大(1)	1	大阪学院大(2)中京大(1)京大(1)山口大(1)神奈川工大(1)	6
		一般企業	日立製作所(3)松下電器(1)松下電工(1)富士フィルム(1)富士ゼロックス(1)日産自動車(1)川崎重工(1)	9	日立製作所(1)松下電工(1)富士フィルム(1)コニカミノルタ(1)NEC(1)東芝ソシオ(1)日東電工(1)タカノ(1)東亜DKK(1)パナソニックCC(1)	10
		個人	1	1	1	1
		サービス提供者	三菱総研(1)産能大(1)佐野国際特許事務所(1)創造開発イニシアティブ(1)アイデア(1)パットブレン(1)	6	産能大(2)佐野国際特許事務所(1)創造開発イニシアティブ(1)アイデア(1)パットブレン(1)	6
	海外	米国(1)EU(1)韓国(1)	3	米国(3)EU(2)台湾(2)韓国(1)インド(1)ロシア(1)中国(1)	11	
	計		20		34	
参加者*	企業ユーザ		71		94	
	教育・コンサルタント		9		43	
	TRIZツールベンダー		15		2	
	その他(知財、IT、個人)		9		8	
	計		104		147	
* 講演者含む						

第2回TRIZシンポジウム発表論文内容

～ 一般発表及びポスター発表 ～

分類		第1回	第2回(今回)	
		件数	件数	講演番号
適用具体事例		3	6	(16)(11)(4) (6)(23)(14)
手法・技法	活用手法(問題分析、他)	3	3	(22)(32)(12)
	技法論、比較評価	2	8	(26)(8)(20)(27) (29)(34)(35)(33)
	特許創生・特許運携	3	2	(30)(19)
	VE(VM)への活用	1	0	—
	創造性教育、教育への活用	—	4	(31)(18)(21)(17)
	全般	2	2	(13)(24)
企業等での推進活動		2	4	(10)(5)(15)(28)
計		16	29	

第2回シンポジウム準備会メンバー

林利弘(日立製作所)

三原祐治(富士フィルム)

黒澤慎輔(産業能率大学)

小西 慶久(MRIリサーチアソシエイツ)

中川徹(大阪学院大学)

堀田政利(創造開発イニシアチブ)

正木敏明(日東電工)

池田和康(積水エンジニアリング)

長谷川公彦(佐野国際特許事務所)

片岡敏光(パットブレン)

粕谷茂(プロエンジニア教育研究所)

海野誠(川崎重工)

前古 護 (アイデア)

仲畑光蔵(日立製作所)

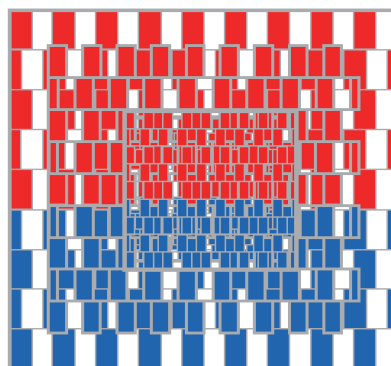
後藤一雄(リコー)

清水玲子(日本TRIZ協議会)

【順不同、敬称略】

「日本TRIZ協会（仮称）」発足に向けて

- ◆日本におけるTRIZの普及促進をオープンかつ継続的に推進していくセンター的組織として、現在の「日本TRIZ協議会」を発展的に改組し、「日本TRIZ協会（仮称）」として発足させるべく検討しています。
- ◆皆様方にはメール登録戴き、今後財政面、活動面で大いなるご支援を戴くことをお願い致します。



ご清聴ありがとうございました